



所蔵雑誌の評価

若杉 亜矢

I. はじめに

昨今、外国雑誌の価格高騰はめまぐるしく、それに対し病院図書館の予算は増額されず、厳しい状況にある。予算の関係上、購読中止を余儀なくされる雑誌も増加しつつある。そこで、今回松下記念病院（以下、当院）における購読外国雑誌の構成について Impact Factor と Brandon/Hill List を使って評価を試みた。なお、今回の評価は当院所蔵の医学一般および内科学雑誌と当院内科（糖尿病・内分泌科、呼吸器科、血液科、消化器科、循環器科、神経内科）医師が利用する専門誌に限定して行った。

II. 対象雑誌

今回調査対象とした雑誌は表1の通りである。専門誌のタイトル数をみると、領域によればらつきが見られるが、それは各科の医師数とこれまでの購読リクエストによる差と考える。購読リクエストは、随時受け付けており、申請があり次第、図書委員会で検討を行う。ただし、予算との兼ね合いや限られた書庫スペースは飽和状況にあり、現在、新規購読は非常に困難である。

III. Impact Factor

Journal of Citation Reports (JCR) の Impact Factor は、ある雑誌において1論文あたり何回引用されたか（被引用率）を表す。過去2年の論文が次に続く1年にどれだけ引用されたかが基準となる¹⁾。

1. 調査方法

城山²⁾の調査方法を参考に、JCR 2003年版に掲載されている Category 別の雑誌リストの中から一般医学、および当院内科医師の専門領域8件を選択した。8件の Category 別 Impact Factor 平均値とタイトル数、さらに当院所蔵の対象誌の Impact Factor 平均値とタイトル充足度を記した（表2）。Category ごとの結果を重視したため、異なる Category に重複しているタイトルはそのままとした。

2. 結果

平均値より当院は比較的 Impact Factor の高いタイトルを所蔵していることがわかる。「医学：一般および内科」の平均値が群を抜いて高い（13.538）のは「New Engl J Med」「JAMA」「Lancet」などいわゆる“コアジャーナル”を多数所蔵しているためと思われる。次いで「胃腸病学および肝臓病学（7.053）」、「内分泌学および代謝（6.485）」と続いていた。しかし、充足度を考慮した場合「胃腸病学および肝臓病学」は4.3%と2番目に値が低く、数は少ないが、Impact Factor の高い雑誌を所蔵していることが明らかになった。逆に充足度のいちばん高い「血液学（9.7%）」の平均値は低かった（3.802）。これは当院には小児科にも血液の専門医がいるため、「血液学」の所蔵誌数が他と比べて多いことが影響したと考える。また、「臨床神経学」はタイトルの総数が多く、充足度としては非常に低い値となった。

全体的にみて、Impact Factor の高い雑誌を選択していること、所蔵誌数においては「胃腸病学および肝臓病学」の所蔵誌数が少なかった

わかすぎ あや：松下記念病院

こと、その他の各領域は医師数を反映する結果となった。

IV. Brandon/Hill List

Brandon/Hill selected list of books and journals for the small medical library は Bulletin of the Medical Library Association (現 Journal of the Medical Library Association) に2年ごとに継続・掲載されていたリストである。アメリカの医学図書館界においては評価の高い収集ガイドである。残念ながら2003年のオンライン版 (<http://www.brandon-hill.com>) を最後に継続が終了した。

1. 調査方法

Brandon/Hill Journal List の Category 別タイトル数と当院所蔵対象誌数の対比を表3に示した。

2. 結果

「内分泌学および代謝」「呼吸器系」「血液学」の3つの Category においては、すべてのタイトルを充たしていた。ただし、「血液学」は「Blood」の1タイトルのみであり、この結果だけで当院の「血液学」が充実しているとはいえない。それに対し、「内科学」の57.1%は非常に低く感じた。先の Impact Factor の結果では「内科学」の充足度は高い値を占めていたのに、今回は充足度100%を示した3領域、「心臓血管組織 (83.3%)」に次ぐ5番目の結果である。これは、Brandon/Hill List が Impact Factor を最重視して作られたものではないということだろう。しかし、当院全体の所蔵外国雑誌からタイトル数の割合を考えると多少違った結果がみえてくる。当院の外国雑誌の総数は85タイトルであり、表1で示した「一般および内科学」は9タイトルである。当院の「一般および内科学」は全体の10%を超えることになり、タイトル数では「一般および内科学」を取りそろえた図書室としてみるができる。一方、Impact Factor の結果でも表れたように、今回も「胃腸病学」のタイトル数が少ないが目立

表1. 対象雑誌

一般および内科学
Am J Med
Ann Intern Med
Arch Intern Med
Brit Med J
Evid Based Med
J Clin Invest
JAMA
Lancet
New Engl J Med
腫瘍学
Cancer
Cancer Res
J Clin Oncol
内分泌学、代謝
Diabetes Care
Diabetologia
Diabets
Endocrinology
J Clin Endocr Metab
呼吸器学
Am J Resp Clit Care Med
Chest
Eur Respir J
血液学
Blood
Bone Marrow Transpl
Brit J Haematol
J Pediat Hematol Oncol
Med Pediat Oncol
消化器学
Digest Dis Sci
Gastroenterology
循環器学
Am Heart J
Am J Cardiol
Circulation
Heart
J Am Coll Cadiol
神経学
Neurlogy
J Neurosurg

表 2. Category 別 IF 平均値、およびタイトル充足度

Category	JCR		当院	
	IF 平均値	タイトル数	IF 平均値	タイトル充足度(%)
医学：一般および内科学	2.111	102	13.538	7.8
腫瘍学	3.363	120	4.086	5.8
内分泌学および代謝	2.912	89	6.485	5.6
呼吸器系	2.228	33	5.046	9.1
血液学	2.435	62	3.802	9.7
胃腸病学および肝臓病学	2.444	47	7.053	4.3
心臓および心臓血管組織	2.014	70	5.258	8.6
臨床神経学	1.832	135	3.982	1.5

つ (50%)。当院の常勤医師総数が80名、そのうち内科医師24名のうち、消化器科医師は8名である (2005年4月1日現在)。そのことを検討に加えるとタイトル数が明らかに少ないことがわかる。

V. まとめ

2つの調査から以下の点が明らかになった。

- ①比較的コアジャーナルを多く所蔵している
- ②領域ごとのタイトル数に差がある

VI. おわりに

今回、Impact Factor および Brandon/Hill

表 3. Category 別タイトル数、およびタイトル充足度

Category	B/H	当院
	タイトル数	タイトル充足度(%)
内科学	14	57.1
腫瘍学	2	50.0
内分泌学および代謝	3	100.0
呼吸器系	2	100.0
血液学	1	100.0
胃腸病学	4	50.0
心臓血管組織	6	83.3
神経学	5	40.0

List より当院内科医師が利用する外国雑誌の評価を試みた。結果、各領域のタイトル数にばらつきがあるものの、コアジャーナルを多く所蔵していることが判明した。しかし、これは Impact Factor と Brandon/Hill List の視点であり、ある程度の目安として考慮しなければならない³⁾。病院図書館は文献を即臨床に応用するケースが多く、各診療科の特徴をとらえた蔵書構成が必要となる。今回の調査項目にアンケートや利用頻度を追加したら違った結果になるだろう。また内科に限らずすべての科の調査を行い、全体のバランスを考慮したい。今回対象外とした和雑誌についても同様の調査が必要と思われる。客観的な数値を参考にしながら、利用者のリクエストや予算にどのように対応していくかが今後の課題である。

参考文献

- 1) 山崎茂明：インパクトファクターとは。医学のあゆみ。2004 ; 208 (7) : 624-5.
- 2) 城山泰彦：Impact Factor 値を用いた蔵書構成評価。臨床雑誌編。医学図書館。1998 ; 45 (1) : 88-96.
- 3) 山崎茂明。インパクトファクターを解き明かす。東京：情報科学技術協会；2004.